

# 川崎 民生委員児童委員 情報

写真提供:中原区住吉第一地区 田邊達夫 会長  
井田山より撮影(東急「元住吉駅」より徒歩30分)



／ 中原区の編集部員おすすめスポット ／

## 「武蔵小杉タワーマンション」

東京・横浜・川崎駅のいずれの方向にも交通の便がよく、都心のベッドタウンとしても宅地化が進んでいます。近年では武蔵小杉周辺のタワーマンションの建設により、特に若い世代の人口が急増し市内で最も人口の多い区になりました。



川崎版民生委員児童委員  
キャラクター  
川崎ミンジー

## もくじ

- P2 ● 各区・地区民児協だより
- P5 ● 主任児童委員部会の活動報告
- P6 ● 地区民児協正副会長・会計研修会の報告
- P7 ● 令和6年度 事業計画・一般会計予算報告
- P8 ● 能登半島地震 支援活動の報告
- P8 ● 編集後記

## 「子ども民生委員」の取り組み

大師第四地区  
星川 美代子

「子ども民生委員」の取り組みをこれまでに（コロナ禍前）二度、地区社協との共催で子ども会の会員を中心に行いました。昨年は当民児協独自で12月2日と16日の2日間にわたり取り組みました。参加者は地区内の二つの小学校5、6年生12名です。目的は子どもたちに、民生委員が身近な相談相手として地域で活動していることを知ってもらい、活動への参加を通して、地域共生社会について共に考えて協働していくためです。

一日目は委嘱状伝達式、民生児童委員についての概要説明、高齢者にお届けする松ぼっくりのクリスマスツリーとカード作りをしました。

二日目は実際に民生児童委員と「子ども民生委員」が一緒に高齢者宅を訪問し、ツリーとカードを安否確認の意味も込めてお届けしました。訪問する道中や高齢者宅で子どもたちはとても活発に話をしてくれました。涙を流して、喜んでくれる高齢者もいて、子どもとのふれあいがいかに心を癒してくれるのかを実感し

ました。子どもたちから「とても良い体験ができた。高齢者に自分が一生懸命に作ったものをほめてもらえて嬉しかった。またぜひ参加したい」等の声が多く聞かれ、有意義な時間が過ごせたのではないかと思います。

今年も12月に「子ども民生委員」の取り組みを予定しています。多くの子どもに民生児童委員について関心をもってもらえれば嬉しいです。



## キッズフェスタ開催に寄せて

日吉第二地区  
林 晴美

小 学校の学校関係者会議に出た時、放課後の公園で、遊び方のマナーが悪いため地域の方とトラブルがあるという話が出ました。また、近隣保育園の園長先生から、卒園児が放課後や休日、公園に友達と遊びに行く時、危険な自転車の運転をしていて心配という保護者からの声があるとの相談を受けています。

でも、平日午前中の公園にはあまり親子の姿が少なく、見かけるのは保育園のお散歩ばかり。

そんな折、主任児童委員が中心になり、コロナ禍で延び延びになっていた子ども向けの企画をすることになりました。話題にのぼった公園の前にあるこども文化センターが、春休みにキッズフェスタを企画中で、共催が実現しました。地域の大人が近所の公園で昔遊びや縄跳び、ちょっとした工作をする企画です。当日は残念ながら雨で、企画は室内に変更して実施し、子ども達と地域の大人との緩い交流はとてもよい時間となりました。

「遊び」は子どもにとって「食べる」「寝る」と同じくらい大切と言われています。子ども達の心と体の土台作りに欠かせない「遊び」を、私たちの育った時代のようなおおらかさで楽しむことが難しくなった今、大人は何ができるだろう。「児童は、よい環境の中で育てられる」という児童憲章前文を読むたびに考えています。



## 大戸第二地区民児協の活動概要

大戸第二地区  
志村 平治

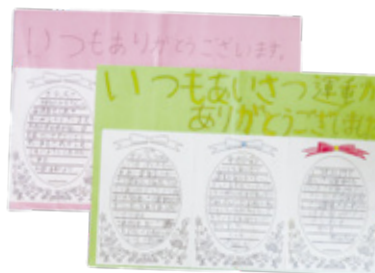
**大** 戸第二地区民児協は、新城地区・大谷戸地区10町会約17,000世帯、約33,000人を民生委員35名、主任児童委員2名で担当し、活動しています。

町会毎に各1名の運営委員を選出し、定期的に運営委員会を設け、議論・確認し、それに基づき毎月定例会を開催。定例会は参加率98%、司会者は全員の輪番制とし、また、参加した研修会や、地域での活動内容等を発表します。年1回の県外研修会は施設見学と委員交流を目的に実施します。各委員は必ず任期中に1度は県外研修委員を担当します。



また、高齢者部会、児童部会を設け、地域の老人ホーム、保育園、聾学校、児童養護施設、こども家庭支援センターなどを見学し、交流を深めています。

地域で活動をするうえで、まず顔を知ってもらうために、改選後すぐに広報誌『愛』を発行しました。これは地域の人、学



校、保育園、老人ホームなどに配布、この『愛』には、当民児協の運営内容、活動の歴史、担当地域ごとの名前と顔写真、朝のあいさつ運動の活動例などを掲載しています。

朝のあいさつ運動とは、平成18年に当民児協が立ち上げた「子育て支援事業」で、ほぼ毎週月曜日の朝、地域にある新城小学校・大谷戸小学校の校門前にて、当民児協のユニホームである赤いベストを着用し、登校する小学生に「おはよう」と声をかける運動です。卒業する小学生から「感謝状」などをもらいました。「感ゲキ」です。

## 活動を通して思うこと・考えること

高津第一地区  
柳下 久光

**ひ** とつは夏休みに行われる「移動動物園」です。夏休みの思い出の一つにと区内にある福田動物園さんのご協力をいただき、動物に触れたり抱っこをしたり、エサやりの体験をしたりと楽しいひと時を過ごしました。ポニーの乗馬もできるとあって子どもたちには大人気の企画です。炎天下での活動となりますので、熱中症など子どもたちの様子を見ながらの運営となります。もちろん動物たちの暑さ対策も必要です。福田牧場さんでは大型の扇風機が多数用意されていました。保育園児が散歩途中に立ち寄り、ワイワイキャーキャー言いながらエサをあげる姿はとても和やかな風景でした。のべ400名程の参加者があり、大盛り上がるの1日となりました。

もうひとつは「歩こう会」についてです。老人クラブや福寿草の会会員（高齢者見守り対象者他）の方々にお呼びかけをし、みんなで楽しく歩きましょうという活動です。健康増進の一助に、引きこもり防止のため、たくさんの方々とのコミュニケーションを図るた

めなどを目的に行われております。コースの設定やトイレの確保、昼食の場所やお弁当の用意、何よりも道中の安全確保など留意すべきことはたくさんありますが、歩きながらの会話や、ブルーシートに座り、お弁当を食べながらの懇談など意義深い行事だと思います。汗をかきながら「つかれた」「楽しかった」と声をかけられると、良かった良かったと思います。

今回はふたつの行事を紹介しましたが、これからも地域福祉の担い手としての期待は高まるばかりだと思います。一方で、あまり無理をすると疲れ果て、長続きしませんよね。各々の生活の中で無理のない、自分にあつた活動の仕方を学んでいくことも大切なことだと思います。



## 「きづく」「つなぐ」「みまもる」をめざして

宮前第二地区  
今西 強

**宮** 前第二地区民児協は、東急田園都市線鷺沼駅を中心に鷺沼町会・有馬町会に渡る地域です。委員32名、主任児童委員2名の34名の地区です。それでは、宮前第二地区民児協で運営している三部会の活動を紹介します。

在宅福祉部会では、一人暮らし高齢者の方を中心に、年6回の会食会を開催しております。皆さん毎回とても楽しみにしてくださり、笑顔がこぼれます。障害児者福祉部会では、西有馬小学校と鷺沼小学校の4年生を対象に、車イス体験とシニア体験を実施しています。障害者の方の生活状況の体験と高齢者の方の生活状況の体験を通して社会貢献の大切さを知っ



てもらおう事を目的としています。児童福祉部会は、保育園児を中心に地域の農家さんの協力で芋掘りで自然に触れる体験をしたり、高齢者との触れ合いを通して生命の大切さを知ってもらおう体験をしています。

私達宮前第二地区民児協は、一昨年の一斉改選で約半数の委員が新任の方となり、民生委員としての基本的な活動と学習と親睦を大切にまいりました。今後とも、基本に立ち返り「きづく」「つなぐ」「みまもる」を中心に協力して活動をしてまいります。

## 地域交流の場 子育てサロン「バンビ」

稲田中野島地区  
一柳 宗義

**稲** 田中野島地区民児協は児童部、高齢者部の2部体制で活動しています。今回は児童部の子育てサロン「バンビ」についてご紹介します。

「バンビ」は0～3歳くらいのお子さんと保護者を対象に、仲間づくりや子育ての情報交換の場になることを願って、平成15年から活動を開始しました。主に中野島会館の和室を会場とし、8月と1月を除く、毎月第2土曜日に年10回開催しています。

内容は「救命救急講習」や「ベビーマッサージ」、保育園の先生による「幼児の食事や病気に関するお話」「親子の手遊び、ふれあい遊び」などです。3月の



「ミニコンサート」では、ディズニーやアンパンマンなどの人気曲を、ピアノやヴァイオリン、フルートなどによる生演奏で聴



けるので、特に人気があります。また、4月と10月には身長・体重を計測しています。

「バンビ」では毎回最初に、お子さんの月齢やどのあたりに住んでいるかなどの自己紹介をします。共通点が見つかりと話すきっかけになります。また、土曜日に開催していることから、お父さんの参加も多くなっています。お母さんだけでなくお父さんも一緒に話が弾み、子育ての輪が広がっているのを見ると、私たちも嬉しくなります。

これからも子育てを応援し、見守っていく温かな町づくりに寄与していけるよう、努力してまいります。

## 住みよい環境づくりへ向かって

麻生東第一地区  
木谷 光江

**麻**生区は長寿日本一になり、全国に報道されました。担当している地域は長い階段を、登り切った高台に10棟ある団地と隣接するマンションの2カ所です。団地は築60年以上になり、入居した人達も今80歳代になっておりほ



とんど高齢者夫婦もしくは独居の方達です。今まで配達をしてくれていたスーパーが無くなり、年齢と共に重い物が持てず買物難民が増加してきました。そんな折、団地集会所に農協が、野菜を売りに来た事がありました。早速自治会長に相談した所、いろいろ交渉してくださり、月に隔週3回午前中、出張販売をしてくれる事になりました。農協をお願いした以上、お客様に多く来ていただく為に周囲にチラシを貼ったり隣の民生委員さんにも協力していただき情報をお知らせし

たりしました。近所の方には声かけをし、徐々に口コミ等で広まって行きました。最初は集会場の庭で販売していましたが、夏場は日差しが強く野菜の鮮度が落ちてしまう為、日陰のあるエントランスでの変更も順調に進み晴雨にかかわらず、買物する事ができるようになりました。近隣の方にも喜んでもらっています。買物に来た方達と販売時間を待つ間に、グチを聞いたたり近況を確認したり楽しくおしゃべりする時間が持てた事と初めて来られた方もあいさつが出来ようになり、新しい出逢いの場となりました。徐々にお茶のみ等ができるよう地域に根付いた交流の場に広がっていただければと思います。



## 「ひろばマルシェ」に参加して

主任児童委員  
目代 由美子

**昨**年3月16日、日常的な憩いの場が豊かなコミュニケーションの場になるよう、宮前区役所市民広場にて「ひろばマルシェ」が開かれ、宮前区主任児童委員部会も参加しました。じもとカフェやハンドメイドのアクセサリ、福島県特産品の販売、似顔絵コーナー、地域探検etc.地域で活動している人が出展し、のんびりと「じもと時間」を楽しんでもらう企画です。

その中で、私たち主任児童委員も「子育て情報コーナー」を作り参加しました。転入手続きの多いこの時期に、区役所と市民館の間にある市民広場で「ようこそ宮前区へ」と手続きに来たファミリーに子育て情報をお伝えし、宮前区は子育てを応援



していますよ、とメッセージを送ったり、市民館内の図書館に本を返却に来た親子に、「赤ちゃんサロン」について声掛けをしたりして、交流を深めました。

この交流に役立ったのが、手形足形コーナーでした。色紙を用意し、0歳から2歳のお子さんを対象に、主任児童委員が協力して、お子さんの手形足形をとります。なかには大泣きする子もいて、簡単な作業ではありません。でも、無事に手形足形がとれると、お母さんは本当に大喜びで、色紙を持つての記念写真を撮る間に会話も弾みました。当日はケーブルテレビの取材もあり、主任児童委員のPRもすっかりできました。

してますよ、とメッセージを送ったり、市民館内の図書館に本を返却に来た親子に、「赤ちゃんサロン」について声掛けをしたりして、交流を深めました。



情報誌編集委員 三ツ森 のり子



**令**和6年2月20日（火）川崎市総合自治会館ホールにて地区民児協正副会長・会計研修が開催され、会長・副会長・会計の三役175名が参加しました。今会長からは「今日の研修は私達が活動して行く上で、支援が必要なサービスを届ける為に行政や関係機関との間での連携・協力体制を築き、個人情報の取り扱いについて正しく理解する事への一助になるのではないのでしょうか。」と挨拶がありました。

第I部では、社会福祉領域における情報活用と地域福祉の推進を中心に実践・研究をされている、田園調布学園大学 学長補佐 兼 人間福祉学部長・教授の村井祐一氏を講師にお迎えし、「個人情報を活用した地域との連携・協働体制づくりについて」と題してご講演いただきました。民生委員活動において個人情報が必要不可欠であることは理解していますが、取り扱いが難しく、関係者間で情報が共有されていないと感じることもしばしばありました。そんな時、講演の中で、個人情報は目的をもって、本人の同意をもとに正しくその人の為に効果的に活用していくものであるという話は印象的でした。個人情報とプライバシー情報は別問題（似て非なるもの）であり、個人情報保護のポイントは「盗難・紛失・誤廃棄・目的外利用」の4点に気を付けて活用することと強調して説明されていました。

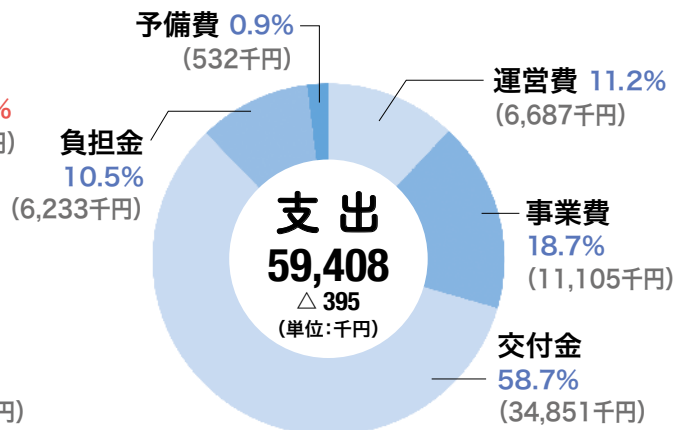
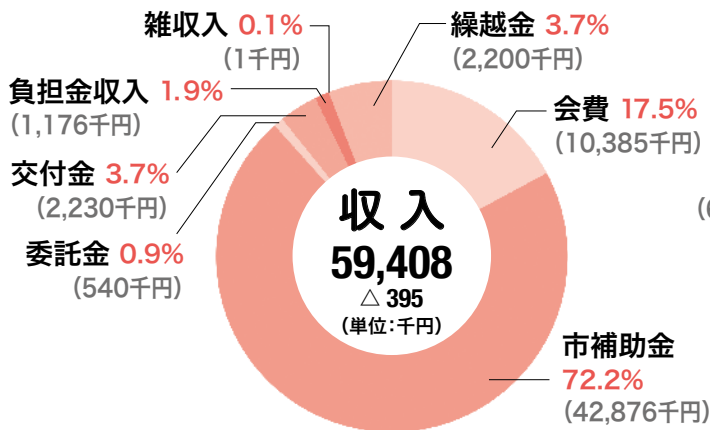
また、地域や関係機関との連携・協働体制は「連携目的・目標の具体化・明確化」「適切な役割分担」「密な情報共有の場と機会づくり」の3つがお互いバランスよく連動して初めて機能すると、先生の研究から見つけ出したモデルの紹介がありました。自分たちばかり主張するのではなく、各々の職務内容を理解してはじめて丁度良い役割分担が実現し、「頼み」「頼まれる」関係が実現します。

第II部では5-6名の少人数に分かれて、講演の内容や各地区の個人情報の取り扱いなどについてのグループワークを行いました。村井先生は各テーブルを回りながら、参加者からの質疑に答えてくださいました。

最後に村井先生より、グループワークの内容を交えて総括をしていただきました。個人情報は「もらい物」ではなく「借り物」「預かり物」と考え、目的をもって正しく扱えば適切な利用ができる。民生委員活動の中で大切な「つながり」づくりには必要なものです。

川崎市民生委員児童委員協議会のホームページで、今回の研修会の動画が公開されています。DVDやUSBで動画の貸し出しも行っているようなので、ぜひ、好評だった講演をご覧ください。個人情報保護や民生委員法をもう一度確認して、民生委員児童委員のみまもり活動につなげていただきたいと思います。

# 令和6年度 事業計画・一般会計予算



## 重点項目

### 1 持続可能な民生委員児童委員活動に向けた 広報・啓発活動の強化

民生委員児童委員に対する正しい理解を広めるとともに魅力とやりがいを発信し、新たな担い手を増やしていくため、様々な広報媒体等を活用しながら民生委員児童委員活動のPRを行います。

### 2 民生委員児童委員の資質向上に向けた 階層別研修の充実

民生委員児童委員が自らの役割を理解し、地域福祉の担い手として活動していくうえで必要な知識・技術を習得するため、各種研修を計画的に実施します。

### 3 地域の子育て・子育てを応援する 児童委員・主任児童委員

活動の推進制度創設30周年を迎えた主任児童委員の役割について認識を深めるとともに、児童委員と主任児童委員との連携強化を図ります。

### 4 区・地区民児協と連携した活動しやすい環境の整備

一人ひとりの委員が「身近な相談相手」として地域で安心して活動できるよう、各区・地区民児協と連携して民生委員児童委員の活動を組織として支えるとともに、活動しやすい環境づくりに取り組みます。

### 5 災害に備える民生委員児童委員活動の普及啓発

「災害に備える民生委員・児童委員活動に関する指針」を踏まえた民生委員活動の基本的な考え方について普及啓発を図るとともに、行政・社会福祉協議会等と連携し災害時要援護者の支援体制づくりに協力します。

## 主な事業内容

### 1 組織の運営

- (1) 理事会の開催 (2) 常任理事会の開催
- (3) 監事会の開催 (4) 正副会長会議の開催

### 2 部会・委員会活動の推進

- (1) 主任児童委員部会の開催 (2) 研修企画委員会の開催
- (3) 情報誌編集委員会の開催

### 3 研修事業の実施

- (1) 理事視察研修の実施
- (2) 中堅民生委員児童委員研修会の開催
- (3) 児童委員研修会の開催
- (4) 主任児童委員研修会の開催
- (5) 一期目民生委員児童委員研修会の開催
- (6) 地区民児協正副会長・会計研修会の開催

### 4 顕彰、互助事業の実施

- (1) 顕彰式典の開催 ※川崎市民生委員児童委員大会と合同開催
- (2) 互助給付事業の実施

### 5 大会の開催及び広報・啓発事業の推進

- (1) 川崎市民生委員児童委員大会の開催(川崎市との共催) ※顕彰式典と合同開催
- (2) 「川崎民生委員児童委員情報」の発行
- (3) 民生委員児童委員制度の意義とその活動を広く社会にPRする取組

### 6 地域に根ざした事業の推進

- (1) 見守り活動及び災害時要援護者支援事業の推進
- (2) 児童虐待や犯罪被害などから子どもを守る取組及び子育て家庭への支援の推進

### 7 福祉基金の運営

- (1) 福祉基金運営委員会の開催 (2) 福祉基金果実の運用

### 8 全国・関東ブロック関係大会・研修会等への参加

### 9 関係機関・団体との連携及び関係事業等への参加協力

- (1) 社会福祉協議会への協力
- (2) 関係行政機関等の連絡調整
- (3) 生活福祉資金貸付制度に関する相談支援
- (4) 川崎市市制100周年記念事業への参画

地域  見守り



## 中能登町災害ボランティアセンター 応援派遣について

ボランティア活動振興センター 儘田 哲郎

**令**和6年元日の夕方に起きた地震により、能登半島は大きな被害を受けました。社協間の協定により、川崎市社協が所属する関東Bブロックは中能登町を支援することとなり、2月4日～2月10日までの期間で中能登町災害ボランティアセンター応援派遣に行っていました。

中能登町は能登半島の中ほど根本に近い位置にあり、人口18,280名で、今回の震災での死者、行方不明者はありませんでした。電気、ガス、水道も通っており、普通の暮らしに戻っているように見えたが、よく見ると屋根にブルーシートがかかっている家や、斜めに傾いていたり、倒壊している家屋が所々あり、道路もひびが入ったり、マンホールがせり



あがっている箇所がありました。

中能登町災害ボランティアセンターは、様々なメンバーで運営されており、社協職員（中能登町、石川県、県内市町村、関東Bブロック）だけでなく、トヨタ関連企業から6名の職員が派遣されており、また、地元の民生委員さんや防災士などからなる現地支援者



が毎日6名、ボランティア受付や資材班を担当していました。

受付の民生委員さんに話を伺うと、「社協からの依頼があり、役員や近隣の民生

委員が交代で手伝っている」「地域を回ってボランティアが必要な人をつないだりした」とのことでした。

近年は地域協働型の災害ボランティアセンターが求められています。もし、川崎市が被災し複数の災害ボランティアセンターを設置する必要がある場合、社協の職員だけで運営することには限界があり、地域の方々の協力が必要となります。甚大な震災であればあるほど、日頃から地域を知っている民生委員の皆様のお力がとても重要であると感じています。

## Information

### 民生委員児童委員の普及啓発用動画について



多くの市民に民生委員児童委員を知ってもらい、興味を持ってもらうために、川崎市が普及啓発の一環として、アニメーション動画を作成しました。令和6年度より「アゼリアビジョン」や「溝の口駅前ノクティビジョン」、「区役所のデジタルサイネージ」、YouTube、XなどのSNSに順次掲載予定です。アニメーション動画は、川崎市民児協のホームページでもご覧になれます。

## 編集後記

情報誌編集委員 飯田嘉徳

コロナウイルス感染症が5類に移行してから1年、社会はコロナ禍前の日常を取り戻したように見えますが、3年にわたるリモート生活は孤独、孤立が一層深まるなど人々の生活に新たな課題を残しました。そんな中、各地区民児協ではコロナ禍での経験を活かし、工夫を凝らして活発な活動が再開されています。「災い転じて福となす」と

いいます。何事もプラス思考に捉え、状況の変化に応じて柔軟な活動をしていきましょう。今号から情報誌のデザインを変更しました。ご感想、ご意見お待ちしております。



発行人 ● 今 富子

編集委員 ● 山木 春雄(委員長) 三ツ森 のり子(川崎区)  
網屋 英子(幸区) 田邊 達夫(中原区)  
飯田 嘉徳(高津区) 浮岳 亮仁(宮前区)  
一柳 宗義(多摩区) 大沼 洋子(麻生区)  
関 清恵(主任児童委員会)

発行 ● 川崎市民生委員児童委員協議会  
〒211-0053 川崎市中原区上小田中6-22-5  
川崎市総合福祉センター6階  
TEL: 044(739)8730  
FAX: 044(739)8731  
E-Mail: minjikyo@csw-kawasaki.or.jp



研修会の情報も掲載しています。  
ぜひご覧ください。

